

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
習志野きらっとスプリント	2019/7/17	SII	船橋	1000m	ハイペース	稍重	展開

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	タガノカビート	牝5	54	下原	ケイムホーム	ミスプロ系	ダンスインザダーク	サンデー系	C	B	B	C	C	C		
2	2	デイジーカーニバル	牡4	56	石崎駿	ヘニーヒューズ	ノーザン系	Cherokee Run	ナスルーラ系	A	C	A	B	A	B	◎	
3	3	アドマイヤゴッド	牡7	58	藤本	ハーツクライ	サンデー系	Danzig	ノーザン系	D	B	C	B	C	B	△3	
	4	コウエイエンブレム	牡6	58	岡部	シニスターミニスター	ナスルーラ系	Forty Niner	ミスプロ系	D	B	C	C	C	C		
4	5	ヨンカー	セ6	57	吉原	Exchange Rate	ノーザン系	Put It Back	インリアリティ系	D	A	B	C	C	B	×1	
	6	ノブワイルド	牡7	57	左海	ヴァーミリアン	ミスプロ系	アンバーシャダイ	ノーザン系	B	B	B	B	B	B	△1	
5	7	キングクリチャン	牡10	56	山本紀	ボーンキング	サンデー系	アンバーシャダイ	ノーザン系	D	C	D	D	D	D		
	8	ラディヴィナ	牝6	54	森	サウスヴィグラス	ミスプロ系	ロシアンボンド	ノーザン系	D	A	B	B	B	C		
6	9	サクラレグナム	牡10	58	赤岡	サクラプレジデント	サンデー系	ブライアンスタイム	ロベルト系	C	A	B	A	B	A	▲	
	10	アピア	セ8	58	御神本	ファスリエフ	ノーザン系	アグネスタキオン	サンデー系	A	A	A	B	A	B	○	
7	11	サトノタイガー	牡11	58	笹川	キングカメハメハ	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	D	B	B	B	C	C		
	12	ジョーオリオン	牡10	57	川島	ダイワメジャー	サンデー系	ジェイドロバリー	ミスプロ系	D	C	D	B	C	C		
8	13	ロマンコスモ	セ6	56	岡村	ファルブラヴ	ノーザン系	エンドスウィープ	ミスプロ系	D	C	B	B	C	C		
	14	クルセイダスピリッツ	牡4	57	山崎	サウスヴィグラス	ミスプロ系	パブルガムフェロー	サンデー系	C	B	B	B	B	B	△2	

隊列図	見解	ラップタイム
ノブワ タガノ アピア ヨンカ クルセ コウエ ロマン デイジ ラディ アドマ サクラ キング サトノ ジョー	船橋1000mといえば、とにかくリピーター色が強いコースとして知られている。かつてはナイキマドリードが同コースで行われる船橋記念で4連覇の偉業を達成（12～15年）。習志野きらっとスプリントでも快速・ラブミーチャンが3連覇を成し遂げている。（11～13年）。今年の習志野きらっとスプリントで中心になるのは、アピアだろう。船橋1000mでは5戦5勝と無類の強さを誇っており、同コースで行われる重賞も18年船橋記念→18年習志野きらっとスプリント→19年船橋記念と3連勝中。出遅れようが玉砕ペースで逃げようがすべて勝利に結び付けており、ここも相手探しの一戦になるのは間違いない。それでは予想にいきましょう。	回顧
ハイペース	本命はアピアに一目置きつつも デイジーカーニバル の差し切りに期待したい。デビューからの無傷の3連勝をマークし、ダービーのダークホースとしても注目されていた馬。重賞初挑戦となった東京湾カップでは単勝1.3倍の断然人気に推され、その勝ち方が注目されていたが、まさかの4着に敗退すると、そこからリズムを崩してスランプへ。今年初戦のB 2でも見せ場なく敗れ、「もう終わってしまったのか…」と思われたが、短距離路線にシフトすると、本来の姿を取り戻して破竹の3連勝。（以下省略）	次走狙い馬

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	タガノカピート		前走園田FCSプリント2着のエイシンエンジョイは南関東のB2、B3で足踏みしていた馬。ハイレベルな南関東重賞では力不足が露呈するだろう。展開も明らかに厳しくなる。		
2	2	デイジーカーニバル	◎	圧巻だったのは前走桑島孝春記念だろう。1000m通過タイムは1分00秒0で、これは昨年の習志野きらっとスプリント（1分00秒3）、今年の船橋記念（1分00秒6）の勝ち時計より速い。しかも本馬は直線でほぼ追うことなく、手綱を押さえつつの圧勝。秘める能力は計り知れない。		
3	3	アドマイヤゴッド	△3	転入初戦でどこまで走れるか未知数も、前走初ダートの天王山ステークスが勝ち馬タテヤマから0.8秒差とそこまで悪くない走り。展開自体は向きそうなので、押さえておいて損はないか。		
	4	コウエイエンブレム		南関東に転入後、かしわ記念8着、さきたま杯9着と見せ場なし。どちらもハイレベルなタートグレードだが、それにしても見せ場がなかった。転入前のJRAでも淡白な走りが続いており、ピークを過ぎたと判断していいのでは。ダート1000mも合うイメージがない。		
4	5	ヨンカー	×1	マル外らしく一本調子の面があり、このメンバー、枠順だと揉まれて何も出来ず...というシーンはありそうだが、前走川崎スパーキングスプリントでは追って味のある面を見せた。外と内に速い馬がいるので、いい意味でデーンに置かれてくれれば、最後に末脚爆発する可能性を秘めている。		
	6	ノブワイルド	△1	行き切れば、どんなにハイペースになっても粘り込みがありそう。4走前のオーバルスプリントではJRA勢を下しているくらいで、南関東限定重賞なら当然能力上位の存在。展開を考えると、外からアピアの徹底マークに合いそうだが、自分の形にさえ持ち込めれば、簡単に失速するとは思えない。		
5	7	キングクリチャン		かつて南関東のB2、B3で壁にぶつかっていた馬。重賞では明らかに力不足だろう。		
	8	ラディヴィナ		1000m以下では【8.2.0.1】と無類の強さを見せているが、唯一馬券圏外に敗れたのが昨年の習志野きらっとスプリント（7着）。前走川崎スパーキングスプリントは軽量51キロで出走できたのも大きかった。今回は相手強化、コース替わり、斤量増でマイナス面の方が目に付く。		
6	9	サクラレグナム	▲	昨年の習志野きらっとスプリントではアピアより1キロ重い斤量を背負いながら3着に好走。すでに10歳馬だが、まだ衰えは感じられない。ここはアピア、タガノカピート、ノブワイルドなど逃げ、先行勢がスラッとそろったので、昨年と同じく展開を味方につけて上位争いに加わってくるのではないか。		
	10	アピア	○	船橋1000mでは敵なしの状態。今回のメンバーを見渡してもデイジーカーニバル以外に先着を許すとは思えない。時々、スタートがひと息の時があるので、その点でもリカバリーが利きやすい外目の枠を引けたのは本馬にとってプラス。間隔はやや空いたものの、状態に関しても何ら心配はいらない。		
7	11	サトノタイガー		船橋1000mは得意条件だが、直近2年の習志野きらっとスプリントは17年6着、18年5着。溜めが利けばひと脚使える怖さはあるものの、好メンバーがそろったここで馬券圏内に入るまでは難しいか。		
	12	ジョーオリオン		年明けの船橋記念では展開を味方につけて5着に健闘したものの、今回のメンバーより明らかに低レベルでかつ11頭立ての少な頭数。今回は掲示板入りさえ難しいはず。		
8	13	ロマンコスモ		船橋の短距離で安定した走りを見せているが、今回はいかんせん相手が強過ぎる。このメンバーではさすがに見劣りするだろう。		
	14	クルセイズスピリット	△2	昨年の習志野きらっとスプリントで外枠から強気に先行して2着に好走。スムーズな先行策さえ打てればとにかくしぶとく、その形に持ち込みやすい大外枠を引けたのは本馬にとってプラスだろう。今年の船橋記念は2番ゲートで苦しい立ち回りを強いられていた。		